

「新型コロナウイルス感染拡大に関連した実践活動及び研究」成果報告書

1. 実践活動・研究の名称

新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活変化が国民の精神的健康に及ぼす影響の実証研究

2. 実践活動・研究の成果

(1) グループ代表者

①氏名：山本哲也

②所属・職名：徳島大学大学院社会産業理工学研究部・准教授

③構成メンバー（ 4 ）人

氏名：内海千種

所属・職名：徳島大学大学院社会産業理工学研究部・教授

氏名：菅谷 渚

所属・職名：横浜市立大学医学群健康社会医学ユニット・助教

氏名：鈴木菜穂

所属・職名：徳島大学大学院創成科学研究科・大学院生

氏名：吉本潤一郎

所属・職名：藤田医科大学医学部医用データ科学講座・教授

(2) 実践活動・研究の成果

背景と目的

2019年12月、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大が発生し、世界各国において外出自粛や店舗休業などを課するロックダウンが実施された。多くの国におけるロックダウンは違反に対する罰則を伴い、経済的な打撃のみならず心理的な苦痛をもたらすことが、諸外国の多くの調査研究により明らかとなっている（Losada-Baltar et al., 2020; Tang et al., 2020; Wang et al., 2020）。本邦においても、複数回にわたって発令された緊急事態宣言によって、罰則を伴わない「マイルドロックダウン」（Yamamoto et al., 2020）が実施され、国民に大きな生活変化をもたらしている。

我々はこれまでの緊急事態宣言時に大規模調査を実施し、メンタルヘルスの特徴を検討してきた。例えば、2020年4月7日に発令された初回の宣言時の調査においては、過去の国民生活基礎調査などと比較して心理的苦痛を訴える人が顕著に増えており、COVID-19感染拡大下の心理的苦痛に関与する因子として、職業・収入・年齢層・性別等が示された（Sug

aya et al., 2020, 2021a; Yamamoto et al., 2020)。さらに、2021年1月8日に発令された第2回目の緊急事態宣言発令時には、初回発令時と比較して、精神的・身体的反応は全体的に減少した一方で、孤独感は緩やかに増大し、社会的ネットワークの減少が認められている(Yamamoto et al., 2022)。また、この社会的孤立を防ぐ因子として、健康的な行動、多くの対人交流、良好な人間関係が示された(Sugaya et al., 2022)。こうした長期的なストレス状況と行動制限は、日本人のアルコール使用量にも影響を与える可能性がある。

これまで、COVID-19パンデミックの長期化が、日本人のアルコール使用にもたらす影響について、大規模サンプルを用いて調査した先行研究はない。そこで我々は、長期化したCOVID-19パンデミック下におけるアルコール使用と、それに関連する心理社会的・人口統計学的特徴を調べるために、最初の緊急事態宣言から約1年後における日本人を対象とした大規模調査を実施した。

方 法

調査対象者 3回目の緊急事態宣言期間の終盤(2021年6月15~20日)において、宣言の対象地域となった6都府県(東京, 愛知, 大阪, 京都, 兵庫, 福岡)の在住者を対象にオンライン調査を行った。除外基準は、(a) 20歳未満, (b) 高校生であり、各県の参加者数は、人口比率に基づいて決定された。

収集項目 ①基本属性: 年齢, 性別, 雇用形態(就業, 主夫/婦, 学生, 無職, その他), 配偶者の有無, 子どもの有無, 世帯年収等の社会統計学的情報。②飲酒行動: AUDIT (Alcohol Use Disorders Identification Test) を用いた。AUDITは、過去1年のアルコール摂取頻度や摂取による影響について尋ねるものである。10項目で構成され(得点範囲は0点-40点), AUDIT得点が8点未満は「飲酒の問題なし」, 8~14点以上は「危険な飲酒」, 15点以上は「アルコール依存症の疑い」と判定される。

これらに加えて、抑うつ症状や不安症状をはじめとした様々な心理社会的データを収集しているが、本報告書では飲酒行動の指標(AUDIT)のみの結果を整理して示す。

結 果

基本属性 計11,453人が研究に参加し、日本の法律で飲酒が禁止されている20歳未満の参加者を除く、11,427人を分析に含めた(女性48.5%, 平均年齢=48.82±13.30歳, 範囲=20~90歳)。今回のデータセットでは、世帯年収への回答以外には、データの欠落はなかった。

パンデミック下の飲酒状況 AUDITの平均得点は、男性5.42±6.51点, 女性2.82±4.80点であった。AUDITの得点分類に基づくと、本調査の参加者は、問題なし群(≤7点)が9379人(82.1%), 危険な飲酒群(8~14点)が1221人(10.7%), アルコール依存症疑い群(≥15点)が827人(7.2%)で構成されていた(Table 1)。

飲酒行動の重症度別における社会人口統計学的特徴の比較 すべての社会人口統計学的特徴において、AUDITで分類された3群の間に有意な差があった。3群間の年齢差は有意であったが($F[2, 11424] = 21.31, p < 0.001, \eta^2 = 0.004$), 「効果量小」の下限値($\eta^2 > 0.010$)よりも低かった。危険飲酒群の年齢(51.05±12.61歳)は、問題なし群(48.47±13.52歳, $p < 0.001$), およびアルコール依存症疑い群(49.46±11.37歳, p

=0.024) に比べて、有意に高かった。

「効果量小」の下限 (Cramerの $V > 0.100$) を基準とした残差分析の結果、危険な飲酒群とアルコール依存症疑い群では、問題なし群とは異なって、女性に比べ男性の割合が有意に大きいことが示された。

Table 1. 本調査対象者の社会人口統計学的特徴と飲酒行動

	N (%) in Each AUDIT Group							Group Difference		
	Total	No Problem		Hazardous User		Potential Alcoholism		χ^2	p	Cramer's V
Overall	11,427	9379	(82.1)	1221	(10.7)	827	(7.2)			
Sex								409.01	<0.001	0.189
Male	5881	4413	(75.0) [-]	865	(14.7) [+]	603	(10.3) [+]			
Female	5546	4966	(89.5) [+]	356	(6.4) [-]	224	(4.0) [-]			
Age								108.40	<0.001	0.069
20-39	3018	2634	(87.3) [+]	229	(7.6) [-]	155	(5.1) [-]			
40-64	6922	5500	(79.5) [-]	817	(11.8) [+]	605	(8.7) [+]			
≥65	1487	1245	(83.7)	175	(11.8)	67	(4.5) [-]			
Occupation								156.61	<0.001	0.083
Employed	7994	6360	(79.6) [-]	949	(11.9) [+]	685	(8.6) [+]			
Homemaker	1754	1609	(91.7) [+]	98	(5.6) [-]	47	(2.7) [-]			
Student	124	102	(82.3)	13	(8.8)	9	(7.3)			
Unemployed	1213	1023	(84.3) [+]	124	(10.2)	66	(5.4) [-]			
Other	342	285	(83.3)	37	(10.8)	20	(5.8)			
Marital status								14.67	0.001	0.036
Married	7217	5864	(81.3) [-]	832	(11.5) [+]	521	(7.2)			
Unmarried	4210	3515	(83.5) [+]	389	(9.2) [-]	306	(7.3)			
The presence of child								12.42	0.002	0.033
Yes	6388	5185	(81.2) [-]	740	(11.6) [+]	463	(7.2)			
No	5039	4194	(83.2) [+]	481	(9.5) [-]	364	(7.2)			
Annual household income								67.22	<0.001	0.061
<2.0 million JPY	715	601	(84.1) [+]	57	(8.0) [-]	57	(8.0)			
2.0-3.9 million JPY	2065	1740	(84.3) [+]	207	(10.0) [-]	118	(5.7) [-]			
4.0-5.9 million JPY	2246	1819	(81.0)	271	(12.1)	156	(6.9)			
6.0-7.9 million JPY	1670	1343	(80.4)	178	(10.7)	149	(8.9) [+]			
≥8.0 million JPY	2313	1757	(76.0) [-]	339	(14.7) [+]	217	(9.4) [+]			

Cramer's V : 0.100~small; 0.300~medium; 0.600~large. [+]: adjusted residuals ≥ 1.96 [-]: adjusted residuals ≤ -1.96 . AUDIT: Alcohol Use Disorders Identification Test. No Problem: AUDIT score < 8. Hazardous User: AUDIT score = 8-14. Potential Alcoholism: AUDIT score ≥ 15 .

考察と復興に関する提言

パンデミック前の 2018 年の日本のデータ (金城他, 2019) と比較すると, (a) アルコール依存症疑い (AUDIT が 15 点以上) の割合が増大している, (b) 危険な飲酒 (AUDIT が 8~14 点) の割合が男性ではパンデミック前後で目立った差はないが (むしろ減少気味), 女性では増加している, といった傾向が見られた (Table 2)。

Table 2. パンデミック前後におけるデータの特徴

	パンデミック下 (本研究)			パンデミック前 (金城ら, 2019)		
	飲酒問題なし	危険な飲酒	依存症疑い	飲酒問題なし	危険な飲酒	依存症疑い
男性	75.0%	14.7%	10.3%	78.6%	16.2%	5.2%
女性	89.5%	6.4%	4.0%	95.5%	3.8%	0.7%

以上のように, 男女共にアルコール依存症疑いの人々の割合が増大しており, 特に女性では, 依存症疑い群と危険な飲酒群の両群が増大していた。パンデミック下の生活変化は, 女性の危険な飲酒やアルコール依存を誘発しやすい状況である可能性が示唆される。また, 男性においては, 危険な飲酒群の割合は増えていないものの, 危険な飲酒か

ら依存症疑いに悪化したケースが増えている可能性も留意すべきである。

COVID-19の流行にともなって日常生活上で様々な困難が生じており (Yamamoto et al., 2020, 2022), こうした困難が飲酒行動の増大と関連している可能性がある。今後は、長期的な追跡調査を行いながら、パンデミック時にアルコール関連問題を増悪する可能性のある心理的特徴や社会的困難を抱える人々に対して、最適な支援を行うための介入方法・システムを開発する必要がある。

引用文献

- Losada-Baltar, A., Jiménez-Gonzalo, L., Gallego-Alberto, L., Pedroso-Chaparro, M. D. S., Fernandes-Pires, J., & Márquez-González, M. (2020). “We’re staying at home”. Association of self-perceptions of aging, personal and family resources and loneliness with psychological distress during the lock-down period of COVID-19. *The Journals of Gerontology. Series B, Psychological Sciences and Social Sciences*, [published online ahead of print, 2020 Apr 13]. <https://doi.org/10.1093/geronb/gbaa048>
- Sugaya, N., Yamamoto, T., Suzuki, N., & Uchiumi, C. (2020). A real-time survey on the psychological impact of mild lockdown for COVID-19 in the Japanese population. *Scientific Data*, 7(372).
- Sugaya, N., Yamamoto, T., Suzuki, N., & Uchiumi, C. (2021a). Social isolation and its psychosocial factors in mild lockdown for the COVID-19 pandemic: a cross-sectional survey of the Japanese population. *BMJ Open*, 11(7), e048380. <https://doi.org/10.1136/bmjopen-2020-048380>
- Sugaya, N., Yamamoto, T., Suzuki, N., & Uchiumi, C. (2022). The Transition of Social Isolation and Related Psychological Factors in 2 Mild Lockdown Periods During the COVID-19 Pandemic in Japan: Longitudinal Survey Study. *JMIR Public Health and Surveillance*, 8(3), e32694. <https://doi.org/10.2196/32694>
- Tang, W., Hu, T., Hu, B., Jin, C., Wang, G., Xie, C., Chen, S., & Xu, J. (2020). Prevalence and correlates of PTSD and depressive symptoms one month after the outbreak of the COVID-19 epidemic in a sample of home-quarantined Chinese university students. *Journal of Affective Disorders*, 274, 1–7. <https://doi.org/10.1016/j.jad.2020.05.009>
- Wang, C., Pan, R., Wan, X., Tan, Y., Xu, L., Ho, C. S., & Ho, R. C. (2020). Immediate psychological responses and associated factors during the initial stage of the 2019 coronavirus disease (COVID-19) epidemic among the general population in China. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. <https://doi.org/10.3390/ijerph17051729>
- Yamamoto, T., Uchiumi, C., Suzuki, N., Sugaya, N., Murillo-Rodriguez, E., Machado, S., Imperatori, C., & Budde, H. (2022). Mental health and social isolation under repeated mild lockdowns in Japan. *Scientific Reports*, 12(1), 8452:1-11. <https://doi.org/10.1038/s41598-022-12420-0>
- Yamamoto, T., Uchiumi, C., Suzuki, N., Yoshimoto, J., & Murillo-Rodriguez, E. (2020). The psychological impact of “mild lockdown” in Japan during the COVID-19 pandemic: a nationwide survey under a declared state of emergency. *International Journal of*

Environmental Research and Public Health, 17(24), 9382. <https://doi.org/https://doi.org/10.3390/ijerph17249382>

金城文・尾崎米厚・桑原祐樹 (2019). 女性のアルコール使用と公衆衛生施策の現状. 日本アルコール関連問題学会雑誌, 21(2), 1-5.

研究成果

【論文】

Sugaya, N., Yamamoto, T., Suzuki, N., & Uchiumi, C. (2021b). Alcohol Use and Its Related Psychosocial Effects during the Prolonged COVID-19 Pandemic in Japan: A Cross-Sectional Survey. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 18(24). <https://doi.org/10.3390/ijerph182413318>

【学会発表】

山本哲也・内海千種・鈴木菜穂・菅谷渚 (2021). 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況で生じる希死念慮の予測因子の同定～計4回の緊急事態宣言下における前向きコホート研究～. 第28回日本行動医学会学術総会抄録集, 46.

【メディア発表】

1. 「二極化する若者のメンタル不調」というニュースの根拠となった研究成果とインタビュー取材内容について, NHK『NHK ニュース おはよう日本』にて放映 (2022年6月14日)
2. 「コロナ禍で進む社会的孤立」に関して, NHKラジオ『Nらじ』に出演 (2022年3月2日)
3. 「宿泊療養『食』の楽しみ 自治体、ストレス軽減狙い」という記事のタイトルにて, 読売新聞に研究成果および取材記事が掲載 (2022年2月19日)
4. 「社会的孤立状態、コロナ禍で深刻 徳島大調べ」という記事のタイトルにて, 日本経済新聞に研究成果および取材記事が掲載 (2022年2月10日)
5. 「コロナ自粛で『社会的孤立状態』増加 徳島大チーム調査」という記事のタイトルにて, 中日新聞・東京新聞に研究成果および取材記事が掲載 (2022年2月9日)
6. 「コロナ自粛、ストレス改善 孤立感は悪化、5万人調査」という記事のタイトルにて, 共同通信、産経新聞、神戸新聞、山陽新聞、静岡新聞、佐賀新聞、長崎新聞、室蘭民報、MEDIFAX web に研究成果が掲載 (2022年2月9日)
7. 「コロナ 社会的孤立感進む 緊急事態宣言 発出ごとに」という記事のタイトルにて, 読売新聞に研究成果および取材記事が掲載 (2022年2月9日)
8. 「若年層 心の不調深刻 緊急事態宣言地域 徳大調査」という記事のタイトルにて, 朝日新聞に研究成果および取材記事が掲載 (2022年2月5日)
9. 「若年層の心の不調深刻 コロナ緊急事態宣言下の自粛生活 徳島大調査」という記事のタイトルにて, 朝日新聞デジタルに研究成果および取材記事が掲載 (2022年2月5日)

10. 「コロナ禍の自粛生活 孤立し『死にたいと思った』4人に1人」というニュースの根拠となった研究成果について、NHK 徳島放送局『NHK ニュース おはよう徳島』にて放映（2022年1月28日）
11. 「社会的孤立状態が悪化 緊急事態宣言のたび 徳大調査」という記事のタイトルにて、徳島新聞に研究成果および取材記事が掲載（2022年1月28日）
12. 「コロナ自粛 若年層4人に1人『死にたい』と思ったことがある」というニュースの根拠となった研究成果について、NHK 徳島放送局『とく6徳島』にて放映（2022年1月25日）

【受賞】

山本哲也・内海千種・鈴木菜穂・菅谷渚 (2021). 第28回日本行動医学会学術集会 優秀演題賞 日本行動医学会

なお、現在は上記のデータと他の調査回のデータを統合・再分析した論文を国際学術誌に投稿準備中である。

謝 辞

本研究支援をいただいたおかげで研究の遂行が可能となりました。常務理事会の先生方や、審査・助成手続きに関わられたすべての先生方・スタッフの皆様に対して、重ねて深く感謝申し上げます。

「新型コロナウイルス感染拡大に関連した実践活動及び研究」会計報告書

活動・研究名称	新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活変化が国民の精神的健康に及ぼす影響の実証研究	
代表者 氏名・所属	山本哲也	徳島大学大学院社会産業理工学研究部・准教授

1. 助成額	
2. 支出合計	
(1) 機器・備品	
1)	
2)	
3)	
(2) 消耗品	
1)	
2)	
3)	
(3) 旅費・交通費	
1)	
2)	
3)	
(4) 謝金	
1)	
2)	
3)	
(5) その他	
1) 調査委託費	¥360,000
2) 助成金維持・管理費（オーバーヘッド）	¥40,000
3)	

※ 領収書は各費目ごとにA4用紙に貼付し、通し番号を付けてください。